



## ◆生育状況について

生育は、昨年より4～5日程度早い状況。今後の気象で変化するので作業が遅れないよう注意する。

## ◆当面の重点作業について

1. 硬核期となり、生理的に不安定な時期となる。核障害の低減のため、急激な摘果・新梢管理にならぬよう十分注意する。
2. 袋掛け、併せて誘引・芽かき・摘心を実施する。
3. この時期は、平年並みの降水量でも、不足する時期となるため、積極的にかん水を実施する。
4. 薬剤散布を適期に実施する。
5. せん孔細菌病の枝病斑が散見される。対策を徹底し感染拡大を防ぐ。

## ◆品質向上・苦土補給欠乏対策について

品質向上として、必要に応じて、下記葉面散布肥料を散布する。

1. 使用時期：第7回薬剤散布に混用使用（単用使用してもよい）
2. 使用資材：調合量1000ℓ当り

【品質向上対策】※下記より、いずれかを選択。

資材名	使用倍率	調合量
オルガミン	1,000倍	100mℓ
ケルパック66	5,000倍	20g
友果	500～1,000倍	200～100g

+

【苦土補給対策】※下記より、いずれかを選択。

資材名	使用倍率	調合量
リーフマグ	1,000倍	100g
グリーントップ70	500倍	200g

## ◆マンガン欠乏対策について

ももネクタリンに発生しやすいマンガン欠乏対策として、必要に応じて、下記葉面散布肥料を散布する。

1. 使用時期：5～6月に2～3回単用使用
2. 使用資材：調合量1000ℓ当り

【マンガン欠乏対策】※下記より、いずれかを選択。

資材名	使用倍率	調合量
グリーンデイズ	500倍	200g
硫酸マンガン	250倍	400g

## 【もも・ネクタリン薬剤防除】

### ◆第7回薬剤散布について

1. 散布時期：6月5日（金）～9日（火） 

実際散布月日	月	日
--------	---	---
2. 使用薬剤（混用順記載）※調合量1000ℓ当り・10a当り散布量：5000以上

農薬名	使用倍率	調合量	もも 収穫前	ネクタリン 収穫前	病害虫
固着性展着剤アビオンE	1,500倍	66ml	—		—
Ⓜデランフロアブル	600倍	166ml	7日	14日	黒星病・ホモプシス腐敗病
Ⓜバリアード顆粒水和剤	4,000倍	25g	前日	3日	モモハモグリガ・シンクイムシ類
IC ジンク水和剤	1,000倍	100g	発病前～発病初期		せん孔細菌病

#### 3. 散布上の留意事項

- 1) 極早生品種（アームキング等）は収穫開始日にかかる可能性があるため、実施が遅れないようにする。
- 2) アビオンEに代えて、K. Kステッカー3,000倍（水100ℓ当り33ml）を使用してもよい。  
この場合、必ずK. Kステッカーは、最後に混用する。
- 3) IC ジンク水和剤は、高温時等に葉に薬害が発生する可能性がある。

### ◆薬害発生原因と予防対策について

毎年この時期になると、薬剤散布が起因する葉の黄変・落葉がある。葉の弱い時期は、下記内容に留意する。

1. 黄変落葉は、薬剤が葉緑素と結合して脱色するもので、通常は薬剤の影響から回復するが、樹勢衰弱樹では落葉する。症状は、褐色斑点⇒せん孔⇒落葉。
2. 主な原因
  - 1) 高濃度使用の農薬
  - 2) 乳剤類・展着剤
  - 3) 多種混用
  - 4) 重複散布
  - 5) 日照不足
  - 6) 風通し
  - 7) 高温乾燥時
  - 8) 樹勢不安定

### ◆せん孔細菌病対策について

1. これからの感染症状と特徴
  - 1) 6～8月は、本年伸びた新梢に発生をする夏型枝病斑の発生がある。  
はじめ紫赤色の病斑だが、広がるにつれて紫黒色になってへこみ、枝に沿って縦長の病斑を形成する。当年の伝染源にはなる。
  - 2) 梅雨期には、葉の発病が増加する。発病は、はじめに葉脈で区切られた不整形の斑点ができ、淡褐色～紫褐色の斑点となり、やがて病斑部分が乾いて抜け落ち、不整形の穴になる。  
かなり目立つようであれば、二次伝染が盛んになる。降雨が続いて、園地内に雨水が長時間残ると、葉の気孔が開くため、感染が起こり多発生になる。
  - 3) 果実での発病は、幼果ほど感染しやすく、ピンポン玉より大きくなると感染しにくくなる。  
幼果の感染後、発病まで2～3週間、ピンポン玉大で40日以上と長くなる。このため、大きくなってから感染すると、有袋栽培では、除袋後でないと発病に気づかない。又は、収穫時に発病しておらず、当年の果実品質に影響が無い場合もある。  
なお、収穫時期が遅い品種ほど、多くなる傾向にある。

## 2. 今後の対策

### 1) 春型枝病斑の剪除に続いて夏型枝病斑の剪除をする。

切除の際は切り口の形成層を確認し、茶色い筋が見える場合は、更に多めに切除し、再発を防ぐ。  
枝病斑にヤニが出ている場合、触らないようにする。触った手は感染防止のため果実に触れないようにする。

### 2) 袋掛けも果実感染を防ぐ重要な方法。発生が多い園は、早めに袋掛けを実施する。

### 3) 薬剤防除は、効果は完全ではないが重要。

当年の果実感染を考えると、袋掛けまでが防除時期。なお、散布量を多くしてしっかり撒く事（特に発生が多い園外周）

### 4) 排水性の悪い園は、対策を行う。



## ◆袋かけについて

### 1. 袋かけ時期

- 1) 肌荒れ、裂果防止のため、目安として6月上中旬頃とし、遅くとも6月下旬頃には終了させたい。
- 2) 生理落果の多い川中島白鳳等は、この頃見直し摘果をし、最後に袋掛けをする。

### 2. 袋かけの要領：一度掛けた袋には触れないようにする。

- 1) 高い所⇒低い所へ。
- 2) 奥の方⇒手元の方へ順序よく。

### 3. 注意点

- 1) がく片（花かす）が着いていると、灰星病や灰色かび病の発生源になるので、落として袋かけを行う。
- 2) せん孔細菌病の発生が多い園は、果実感染防止のため、早めに実施する。